

# 多角化が進んできた飯田・下伊那の観光農園

地理委員会 泰阜南小学校 遠山 高雄

## 1 はじめに

飯田・下伊那には、りんごや梨を栽培する果樹園が多く見られ、地域の農業の重要な役割を果たしている。果樹園の中には、果実を収穫して農協などに出荷するのではなく、観光客を呼び込んで果物狩りを営む「観光農園」も多い。近年、その観光農園が、りんごや梨だけでなく様々な果樹の栽培などを行って、観光客を呼ぶようになってきた。一観光農園が多種類の果樹の栽培を始めたり、栽培するのは一種類でも、今までなかった桃やさくらんぼ、ブルーベリーの果物狩りを始めた観光農園があったりする。観光農園が、様々な果樹などの栽培や果物狩りだけでなく多様な営み始めたことを「多角化」ととらえ、多角化が進んできたのはなぜなのか、観光農園は何をめざしているのか探ってみよう。

## 2 飯田・下伊那の観光農園の歩み

1975（昭和50）年、飯田・下伊那に中央道が開通すると、天竜峡や舟下りの発着場近くの龍江や川路、松川インターチェンジ付近に果樹園の多い松川町、飯田インターチェンジから天竜峡への通路となる伊賀良などを中心に、観光農園が広がっていった。中京圏や近畿圏から訪れる観光客がほとんどで、舟下りや温泉、水引工芸館などを楽しむツアーの一目的地として観光農園を訪れるようになった。

## 3 多角化が進む観光農園の現状

### (1) 観光農園の広がり

観光農園の中心は、現在も龍江・川路や松川である。これらの農園の中には、りんご狩りを基盤としながら、さくらんぼ狩りやブルーベリー狩りを始めた農園が数多い。さらに、桃狩り、さくらんぼ狩りなどの観光客を、町村営の組織などを通して受け入れている農家が、喬木村、豊丘村、高森町などに多く、観光農園の分布はさらに広がっている。観光農園は、どのような経営をしているのだろうか。

### (2) 農園の経営形態

#### ① 組合を作って果物狩りを宣伝、組合本部が観光客を振り分ける形で観光客を呼び込む農園

龍江、川路では「天竜峡りんご狩り組合」、松川では「信州松川くだもの観光協会」を農園が自分たちで作り、訪れた観光客を組合員の農園に振り分けている。現在、龍江・川路では27軒、松川には58軒の農園が加盟している。この経営の形は以前からのもので、一度訪れた観光客が農園のお得意さんとなり、続けて訪れるようになることも多い。

#### ② 町村営の組織が窓口になって果物狩りを宣伝、組織が観光客を振り分ける形で観光客を受け入れる農園

喬木村では「たかぎ農村交流研修センター」、豊丘村では「豊丘村交流センターだいち」、高森町では「高森町営農支援センターゆうき」が、それぞれ果物狩りの窓口となって、訪れた観光客を農園に振り分けている。①と似ているが、農園は観光客の呼び込みや振り分けにほとんど関わらず、組織の職員がその担当をしている点で異なる。これは近年確立されてきた経営の形で、いちご狩り、さくらんぼ狩り、桃狩りなどはこの形で進められていることが多い。

#### ③ 旅行会社などに働きかけたり、インターネットの掲示でアピールしたりして観光客を呼び込む農園

単独の農園で、観光旅行を企画する旅行会社、バス会社等に働きかけたり、充実した農園のホームページを開設したりして、観光客を呼び込む道を開拓した農園がある。従業員が多く、観光客への対応、施設の様子など、農園というよりも会社会的な雰囲気をもっている。

### (3) 栽培作物や体験などの内容

りんご狩り、梨狩りから始まった飯田・下伊那の観光農園は、桃狩り、さくらんぼ狩り、ブルーベリー狩り、プルーン狩り、すもも狩りなどへ多角化してきている。さらには、果物狩りにとどまらず、ラベンダー狩り、りんごパイ作り、カ



